

グローバル言語のつばさを広げて、世界へ飛び立とう！ 世界で一番話されている言語！

どこで話されていることば？

中国語はもちろんあの人口約14億人を誇るお隣の国、中国で話されていることばですが、話されているのは中国本土だけではありません。華僑と呼ばれる中国にルーツを持ち外国で暮らす人々が世界中にたくさんいて、各国で固有のコミュニティを築いています。日本では、横浜・神戸・長崎の中華街の他、近年では、新宿・池袋にも中国語を話す人々がコミュニティを築いています。しかし、ルーツとなる土地によって、話されることばにも違いが見られ、広い国土を有する中国ですから、その違いは日本語の方言の比ではありません。また、人口の9割以上を占める漢民族のほかに、チベット族、ウイグル族、朝鮮族、モンゴル族、ミャオ族など55の少数民族が存在し、それぞれ独自のことばをもっています。では、ルーツが異なればことばが通じないのかというと、そうではありません。公的機関やテレビ、ラジオ等で用いられる共通語（普通話）が設けられており、人々は学校教育で修得します。世界中に散らばる中国にルーツを持つ人々は共通語を用いて意思疎通を行っており、皆さんが学ぶのもこの共通語（普通話）です。

日本語とはどんな関係？

日本語を話す皆さんにとって、中国語で用いられる文字は身近なものです。日本は古くから中国と関りを持ち、いろいろなものを輸入しましたが、その最たるものが漢字です。現在中国で用いられているのは、簡体字といって、日本で用いられている漢字とは少し形が異なります。しかし、簡体字はいかにして効率よく共通語（普通話）を全国に普及させるかという一点から考案された漢字ですから、それほど覚えづらいものでもありません。日本語の漢字と大体の形や意味が共通しているものも多くあります。そのため、日本人にとって中国語は学びやすい言語とされています。

大事なのは発音！

しかし、ことばは文字だけで成り立ってはいません。文字と同じように音も重要です。特に、日本語話者はすでに漢字を知っているため、簡体字はすぐに覚えられますが、発音は苦労しがちです。それは、中国語（普通話）には日本語にはない音があり、また、日本語では区別しない音を区別するためです。いくつか難関ポイントを挙げれば、①母音の種類が多く、四声と呼ばれる4種類の音の高低・変化がある、②濁音がない代わりに、発音する際一気に息を強く吐き出す音（有気音といいます）と、そうではない音（無気音といいます）の区別がある、③舌をそらして発音する音が4種類ある、といった点です。これらの発音は日本語にはないため、始めは難しいかもしれません。しかし、日本語に「あ」と「お」の中間の音がないように、中国語にもそれぞれの音と音は区別されています。ですから、ネイティブスピーカーのような「上手な発音」ではなく、他の音と区別できる「正しい発音」が身に付けられればよいのです。日本語話者は漢字を知っているというアドバンテージがあるので、文字に

労力をかけず、発音に力を入れることができます。このアドバンテージを活かし、たくさん発音を練習していきましょう。

最近のトピック

ボーダーレスな時代

近年、日本に居ながらにして、中国語に触れる機会が以前より多くなってきたのではないのでしょうか。東京駅や大規模なデパートでは中国語のアナウンスを耳にするし、新宿や渋谷あたりをぶらりと歩けば中国語が飛び交っています。実は中国にいるのではないだろうかという錯覚を覚えることさえあります。この状況は上海でも同じで、上海の街並みを楽しんでいる時、特に「豫園」という上海の有名な観光名所では、中国語よりも日本語を耳にする時もあります。もう日中間には、ボーダーレスな時代が来ているのかもしれませんが。

電車の電子掲示版の中国語表示も増えてきています。例えば、多摩モノレール線なら、“感谢乘坐多摩单轨电车。本次列车开往上北台。”「本日は多摩モノレールをご利用くださいまして、ありがとうございます。この電車は上北台行きです」と表示されます。中国語表示が増えたのは2020年のオリンピックに向けた準備であると同時に、日中の経済活動の活発化も反映しているのだと思います。「爆買い」が新語・流行語大賞を受賞したことは中国でも話題となりました。中国人の豪快な買い物ぶりは、「バブル経済期の日本人を彷彿とさせる」とマスコミで評されています。日本政府は「2030年の訪日外国人数を6000万人」に増やす新目標を決めましたが、中国人観光客の占める割合は現在よりも高くなることが予想されます。さて、みなさんの学び舎である中央大学の緑豊かなキャンパスを歩けばあちらこちらに中国語表示があるのにお気づきでしょうか。例えば、商学部棟に行くと、“这里是5号馆1层。发生大型灾害时的避难场所是田径运动场。请保持镇定，注意安全，向避难场所转移。”「ここは5号館1階です。大規模な災害が発生した場合の避難場所は陸上競技場です。おちついて身の安全をはかり、避難場所へ移動してください。」という災害避難マップがあります。

ところで、“清真菜”「qīngzhēncài」という中国語を見て、漢字から推測しようと思っても、この単語の示す意味がいまひとつわからないのではないのでしょうか。“清真菜”はムスリム料理のことです。2016年4月から中央大学生協が、ムスリム（イスラム教徒）の方でも安心して食べられるようにハラール認証のカレーメニューを始めることになりました。ムスリム料理と聞いても、中国との関連性をイメージできないかもしれませんが、多民族国家である中国ではイスラム教の信者は少なくありません。例えば、中国最大のムスリム教徒集団“回族”はイスラム教を信仰するため、豚肉を食材に使わないムスリム料理を食べます。中国の街をはじめ大学の食堂にも、必ずムスリム料理を専門に取り扱う“清真菜館”（ムスリム食堂）というのがあります。現在のようなボーダーレスな時代では、中国人や中国的なことが日本社会に入ってくる傾向がますます強まることでしょう。

Facebook ページ「中央大学商学部中国語」にアクセス！

先輩たちの中国旅行や留学、ゼミや就活、仕事現場での活躍が見られます。

